

政 務 活 動 一 覧

議員名：鳥羽喜一

旅行期間	活動日時	活動先			政務活動の内容	関連領収書番号
		住所	活動先の名称	対応部局等		
4 月 22 日	14:30-15:30	東京都千代田区永田町	参議院議員会館	藤井参議院議員	要望	2-1, 2
5 月 16, 17 日	終日	東京都新宿区西新宿 2-8-1	東京都庁他	16 日 9:10～10:15 豊南高校（ペスタロッヂテクノロジー社 ALPHA 入力現地視察） 11:00～12:00 東京都庁（東京都教育庁ヒアリング） 12:00～13:00 ペスタロッヂ社とのランチディスカッション 14:30～17:00 アゼリー視察 17 日 10:00 とっとりおかやま新橋館視察（アンテナショップ・東京本部対応）	視察	5-1, 2, 3
7 月 12 日	13:00-16:40	東京都新宿区四谷 1-6-1	コモレ四谷	講演会	視察	11-1, 2, 3
7 月 23 日	10:00-11:00	東京都千代田区霞が関 3-2-2	文化庁	担当課	要望	12-1, 2
8 月 9 日	13:00-17:00	東京都千代田区丸の内三丁目	議員研修	研修	研修	14-1, 2, 3
8 月 4 日～7 日	終日	韓国	東海市など	市長等 詳細は添付資料参照	要望	18-1～11
8 月 19 日	終日	隠岐	海士町複業組合など	担当者 詳細は添付資料参照	視察	19-1～11

9月3日	10:00-15:00	鳥取県鳥取市1-220	鳥取県執行部	担当課	政調会	22
10月10日	16:00-17:00	倉吉市小田458	伯耆しあわせの里	海岸清掃ボランティアの皆様	意見交換会	25
10月19日	9:00-12:00	鳥取市布施146-1	県民体育館	開会式参加	ねんりんピック	26
10月19日	16:30-17:30	鳥取県倉吉市山根645-2	スイコーワークキャンプ	福祉関係	面談	27
11月10日	13:00-14:00	米子市法勝寺70	ダラズクリエイティブボックス	若手議員	意見交換会	29
11月25日	13:30-16:30	鳥取県倉吉市山根645-2	スイコーワークキャンプ	スポーツ関係	面談	30
12月1日	13:30-14:00	鳥取市浜坂1390-1142	サンドボックス	海岸清掃関係者	面談	35
12月16日	12:30-14:00	鳥取県倉吉市山根645-2	スイコーワークキャンプ	福祉意見交換会	資料作成	36
12月25日	10:00-11:00	鳥取県倉吉市山根645-2	スイコーワークキャンプ	子ども食堂意見交換会	面談	38
12月27日	9:00-10:00	大阪府大阪市北区梅田1-1-3	鳥取県大阪本部	担当課	視察	39-1, 2, 3
1月13日	19:00-20:30	オンライン講座	オンライン鋼材	講師 添付資料参照	研修	52-1, 2
1月28日	10:00-11:00	鳥取県鳥取市1-220	観光戦略課	担当者	レク	43
1月31日	10:00-12:00	鳥取県鳥取市末広温泉町131	コモド保育園	担当者	視察	45, 46
2月4日	9:00-15:00	鳥取県鳥取市1-220	鳥取県執行部	担当課	政調会	51
2月12日	終日	宮崎県宮崎市橘通2-10-1	宮崎県庁	担当課	視察	42-1~16
2月13日	13:30-17:00	大分県国東市東町鶴川149	国東市役所	担当課	視察	42-1~16
2月17日	13:30-14:00	鳥取県倉吉市山根645-2	スイコーワークキャンプ	団体関係者	面談	49
2月18日	11:00-12:00	鳥取県倉吉市山根645-2	スイコーワークキャンプ	青年団体	面談	48
2月26日	13:30-14:30	鳥取県倉吉市山根645-2	スイコーワークキャンプ	起業	面談	65
3月22日	15:00-16:00	鳥取県米子市明治町125	米子ワシントンホテル	議連	講演会	56

3 月 30, 31 日	終日	国外 (フィンラ ンド、オースト リア)	59-1 参照	59-1 参照	視察	59
-----------------	----	----------------------------	---------	---------	----	----

- ・ 交通費（JR 等運賃、タクシー代、駐車場代）、宿泊費、会議等への参加費及び会議の開催経費（会場代、講師謝金等）に政務活動費を充当する場合に記載すること。
- ・ 移動日等も含め政務活動が複数日に渡る場合は、移動日等を含めた「旅行期間」と実際の政務活動を行った「活動日時」を記載すること。なお、旅行期間が1日である場合は、旅行期間欄は空欄とし、活動日時欄の時間は記載不要とする。
- ・ 県外及び国外での政務活動については、別途「活動報告（県外・国外）」を提出すること。

活 動 報 告 (県外・~~国外~~)

議員名：鳥羽喜一

活 動 事 項	共通テスト受験会場に関する意見交換
活 動 年 月 日	4 月 22 日
場 所	参議院議員会館（東京都千代田区永田町）
活動の相手方	藤井参議院議員
活 動 の 目 的	鳥取県中部地域に大学入学共通テストの受験会場を設置するための国への働きかけを要請するため
活 動 の 内 容	鳥取県中部地域には共通テスト（旧共通一次試験）の受験会場が設置されておらず、生徒は鳥取市の鳥取大学まで移動して受験する必要がある。その所要時間は片道で1時間半以上に及ぶ場合もあり、早朝出発を余儀なくされるケースもある。 このような状況は、生徒の心身に大きな負担を与えるだけでなく、悪天候や交通トラブルなどの影響も受けやすく、受験環境の公平性という観点からも課題が大きい。 この現状を藤井議員に説明し、特に県内でも人口・学校数のある中部地区（倉吉市周辺）に受験会場を設置する必要性について意見交換を行った。また、大学入学共通テストが文部科学省の外郭団体である独立行政法人大学入試センターにより実施されていることを踏まえ、同センターや文科省への具体的な要請の方法についても意見を伺った。
活 動 の 結 果 等	鳥取県中部地域における受験機会の不平等性について理解をいただき、現場の声としての重要性をご認識いただいた。藤井議員からは、大学入試センターや文科省に対し、中部会場設置の可能性について検討を求める方向で調整を進める意向が示された。今後も必要に応じて、県内関係機関との連携や継続的な要望活動を行っていく。
関連領収書番号	2

活動報告(県外・国外)

議員名：鳥羽喜一

活動事項	東京視察(教育、福祉)
活動年月日	2024年5月16日-5月17日
場所	東京
活動の相手方	豊南高校、ペスタロッチ社、社会福祉法人アゼリー、東京都庁
活動の目的	今回の視察では、教育・福祉分野における先進的な取り組みを実際に現場で見聞きし、県内施策への応用や改善のヒントを得ることを目的としました。 豊南高校では、体育テストのICT管理アプリ「ALPHA」を導入した教育現場を視察し、デジタル化による業務効率化と生徒支援の在り方を学びました。 東京都教育庁では、教育分野におけるICT活用や教員の業務負担軽減に向けた施策について意見交換を行い、他自治体の先進事例を確認しました。 社会福祉法人アゼリーでは、高齢者と園児が交流する異世代支援の取り組みや、福祉現場のICT導入による業務改善の実例を学び、地域共生社会の実現に向けたヒントを得ました。
活動の内容	豊南高校(ペスタロッチテクノロジー社 ALPHA 入力現地視察) 東京都庁(東京都教育庁ヒアリング) 社会福祉法人アゼリー視察
活動の結果等	■ 体育テストアプリ「ALPHA」の活用について(豊南高校) 豊南高校で導入されている体育テスト管理アプリ「ALPHA」は、体力測定結果の入力・管理・分析を効率化するもので、教員の負担軽減に加え、生徒の体力推移を可視化することで、個別の運動指導にもつながられる点が印象的でした。 これまで紙ベースで煩雑になりがちだったデータ処理がアプリによって一元化されており、データを活用した教育へのヒントを得ることができました。今後、県内の高校・中学校でもこうしたICTツールの導入が進めば、体育科目における指導の質の向上と教員の働き方改革の両立が図れると考えます。 ■ 東京都教育庁との意見交換 東京都教育庁とのヒアリングでは、教育現場におけるICT活用や教員業務の効率化、そして教育データの利活用に向けた仕組みについて話を伺いました。とりわけ、校務支援システムや教育委員会とのデータ共有体制など、自治体間連携による効率的な運用方法は、県内でも導入可能なモデルと感じました。 ■ 福祉現場における地域密着型支援(アゼリー)

	社会福祉法人アゼリーでは、高齢者福祉・障がい者支援施設に加え、保育園も運営しており、高齢者と子どもが夕方の時間を一緒に過ごす「異世代交流」の取り組みを視察しました。 高齢者の方が園児に絵本を読んだり、一緒に折り紙を楽しんだりといった光景は、まさに「地域共生社会」のモデルとも言える温かなものでした。子どもたちにとっては豊かな情緒や社会性を育む貴重な機会となり、高齢者の方々にとっても生きがいや笑顔を引き出す時間になっていることが印象的でした。 こうした異世代のふれあいは、福祉と保育、教育を横断する新しい地域支援のかたちであり、県内でも積極的に普及・推進すべき取り組みだと感じました。また、同法人では職員の ICT 活用による記録作業の効率化やチーム支援の質の向上にも注力しており、人手不足という課題に対しても前向きな取り組みが進められていました。
関連領収書番号	5

活 動 報 告 (県外・国外)

議員名： 鳥羽喜一

活 動 事 項	IT・組織マネジメントに関するセミナーへの参加
活 動 年 月 日	7月12日
場 所	東京(丸の内)
活 動 の 相 手 方	株式会社 T00
活 動 の 目 的	自治体における情報システム投資の最適化、人的資源の活用、組織改革の視点を学び、地域行政の情報化推進や DX 戦略に資する知見を得るため。
活 動 の 内 容	以下の4つのセッションに参加し、IT導入に関する実践事例や組織マネジメントにおける課題と解決策を学んだ。 【セッション1 (13:00～14:00)】 『企業規模に合わせた適切な IT 投資戦略を経営目線で考える』 ・中小企業から大手企業までの IT 投資判断の考え方を紹介。 ・ROI (投資対効果) の分析例、段階的導入と失敗回避策、情報部門と経営層の連携のあり方について学んだ。 ・地方自治体においても、スモールスタートによる導入と費用対効果の説明責任が必要と再認識。 【セッション2 (14:10～14:50)】 『システムやるなら先に組織カルチャー?! 両方に向き合ってわかったこと』 ・新システム導入時に現れる抵抗感への対応や、変革を推進する中間管理職の役割が焦点。 ・行政でも職員の合意形成や段階的な意識変革を並行して行う重要性を実感。 【セッション3 (15:00～15:50)】 『急拡大するグループでの、選択の自由と統制』 ・多拠点・多部門でのシステム統合時に生じる自由度と統制のジレンマの解決例を紹介。 ・行政の広域連携、学校間・施設間のシステム調整にも通じる問題提起として有意義。 【セッション4 (16:00～16:40)】 『人材・モチベーション・情報システムの融合とエンゲージメント』 ・人事評価、勤怠管理、職員のキャリア支援といったシステムが職場の定着率・意欲にどう影響するかを考察。 ・自治体における人材確保・定着施策に IT をどう活かすかのヒントを得た。

活動の結果等	民間での実践知を通じて、地方自治体でも段階的 IT 導入、組織文化改革との連動、職員参画による合意形成の重要性を再認識。システム導入における目的の明確化と、現場に根差した推進手法について、多くの具体例と知見を得ることができた。
関連領収書番号	11

活 動 報 告 (県外・国外)

議員名：鳥羽喜一

活 動 事 項	文化庁との協議（日本博・まんが王国とっとりに関する要望）
活 動 年 月 日	7月23日
場 所	文化庁
活動の相手方	文化庁担当者
活 動 の 目 的	日本博を契機とした地方文化資源の活用・発信強化に関して、鳥取県が進める「まんが王国とっとり」の取り組みを全国発信するため、文化庁との意見交換・要望活動を行う。
活 動 の 内 容	文化庁 日本博推進室を訪問し、鳥取県が推進する「まんが王国とっとり」の文化政策としての価値と実績を説明。 ・本県では、地域に根差した漫画文化（地元作家、まんが博物館、まんがまつり等）を核とした観光・教育・交流事業を継続的に展開中。 ・文化庁が主導する「日本博」の主旨（多様な文化の発信、地域文化の振興）に合致するものであり、今後の開催企画において鳥取の取り組みが組み込まれるよう要望。 ・「日本博」関連の支援制度（文化芸術創造拠点形成事業、地域文化資源活用推進事業等）の今後の募集枠や公募スケジュールについても確認。 ・地域文化の発信には持続的支援と中央との連携が重要であり、まんがを通じた文化・教育・国際交流の展望についても意見交換を実施。
活動の結果等	文化庁からは、本県のまんがによる地域振興の取り組みは全国的にも特色ある事例であり、今後の事業検討の中で参考とする旨の反応を得た。 また、各種文化庁事業への応募に関して、必要な助言や情報提供の協力を得る体制を整えることを確認。 今後も引き続き具体的な企画提案や共同事業構築に向けた情報交換を継続予定。
関連領収書番号	12

活 動 報 告 (県外・国外)

議員名：鳥羽喜一

活 動 事 項	地方議員研究会「決算審査に関する研修」
活 動 年 月 日	8月9日
場 所	東京(丸の内)
活動の相手方	■■■■氏
活 動 の 目 的	地方議員として、行政執行に対する評価機能を果たす上で、決算審査の意義と手法を改めて学び、政策立案・予算編成に反映できる力量を高めることを目的として、本研修に参加した。
活 動 の 内 容	■■■■氏からは、主に次のような具体的な講義が行われた： ・決算審査の基本的な位置づけ：決算は「事業の成果を見るもの」であり、「税金が適切に使われたか」だけでなく、「目的を達成したか」に注目すべきとの指摘。 ・決算書類の見方と押さえるポイント：予算との乖離だけを見るのではなく、目標の達成度、執行率が高い理由・低い理由、継続事業の成果比較など、具体的にチェックすべき視点を提示。 ・議会としての対応策：形式的な「報告聴取」ではなく、部局に対して「なぜこの事業を継続したのか」「廃止判断をした根拠は何か」などの問いかけが重要であることを強調。また、自治体によっては、決算審査の結果を「決算意見書」や「改善提案集」として執行部に提出している好事例も紹介された。 ・実務に役立つ資料と手法：行政評価シートやKPI指標の活用、住民にわかりやすい成果の「見える化」の工夫も紹介。
活 動 の 結 果 等	本研修を通じて、「決算審査は予算編成に反映させて初めて意味を持つ」という考えを再確認した。単に支出額や執行率を確認するのではなく、「事業の実効性」や「政策効果」まで掘り下げて評価する視点が重要であることを実感した。 特に、■■■■氏が述べた「決算審査を通じて事業の縮減や廃止、改善提案を行うことが議会の役割である」という言葉は、今後の活動における重要な指針となる。 今後は、決算委員会や本会議での質疑において、「予算→執行→成果→次年度への改善」という一連の流れを意識し、県政の透明性と成果向上に寄与できるよう取り組んでいきたい。
関連領収書番号	14

活 動 報 告 (県外・国外)

議員名： 鳥羽喜一

活 動 事 項	韓国視察
活 動 年 月 日	2024 年 8 月 4 日 (日) ～2024 年 8 月 7 日 (水)
場 所	韓国 (東海市、釜山港等)
活動の相手方	東海市 (シム・ギュオン市長)、パプリカ農家、釜山新港視察、釜山港湾公社 (部長)
活 動 の 目 的	国際定期貨客船航路の運航開始にあわせ、初便で東海市を訪問し、航路の再開を祝うとともに、境港の利用促進を図るため、東海港背後地の経済自由区域や釜山港湾公社との意見交換等を実施する。
活 動 の 内 容	別紙を参照
活 動 の 結 果 等	就航・運行において補助金を交付している境港と東海を結ぶイースタンドリーム号に実際に乗船し、境夢みなとターミナルのオペレーションや乗船者の客層、乗船率等を確認した。 東海市長、そしてイースタンドリーム号の運航会社であるトゥウォン商船社社長と面談し、今後の就航継続についての見通しと、東海市サイドの支援を要望した。 就航継続のために鍵となる、積み荷の確保のために、韓国の主要農作物であるパプリカ農家を訪問し、他の輸送ルートと境港-東海港との料金差を実際に計算しながら、境港管理組合職員とともに膝詰めで意見交換を行った。 釜山新港・釜山港湾に訪問し、境港の今後の展望と重ね合わせながら、世界有数の釜山港の成り立ちや今後の展望を拝見し、国の積極的な関与を以て成長してきた経緯を確認した。
関連領収書番号	18

(別紙)

訪韓団 日程

- 1 目的 国際定期貨客船航路の運航開始にあわせ、初便で東海市を訪問し、航路の再開を祝うとともに、境港の利用促進を図るため、東海港背後地の経済自由区域や釜山港湾公社との意見交換等を実施する。

2 訪問者 計11名

(議員)

鳥取県議会
鳥取県議会
鳥取県議会
鳥取県議会

議員
議員
議員
議員

浜田 一哉
斉木 正一
福田 俊史
鳥羽 喜一

(経済団体)

環日本海経済活動促進協議会

副会長

(事務方)

鳥取県 商工労働部経済産業振興監兼国際航路戦略監
商工労働部通商物流課
商工労働部通商物流課
商工労働部通商物流課

課長
課長補佐
係長

佐々木 徹
清水 明史
森本 哲夫
生田 智哉

境港管理組合

事務局長

岩下 久展

境港貿易振興会 (環日本海経済活動促進協議会 事務局)

事務局長

3 日程

日にち	時間	日程
8/4 (日)	17:00~17:30 19:00~	■訪韓団結団式 場所：境夢みなとターミナル待合ホール 境港出港 [宿泊：イースタンドリーム号内]
8/5 (月)	~10:00 10:00~10:30	東海港入港 ■歓迎式典 場所：東海港国際旅客ターミナル内
	10:30~11:00 11:00~11:30 12:00~13:00 13:00~13:30 14:00~15:00 15:00~16:00 16:00~17:00 17:00~20:00	[移動]ターミナル→東海市庁 ■東海市 沈圭彦(シム・ギュオン)市長との面談 場所：東海市庁 ■東海市 沈市長(シム・ギュオン)との昼食会 場所：東海市内 [移動]東海市内(借上車) ■江原特別自治道経済自由区域庁との面談 場所：江原経済自由区域庁(東海市) [移動]江陵市→平昌郡(借上車) ■五大営農組合法人との面談及びパブリカ生産地視察 場所：平昌郡 [移動]平昌郡→ソウル市内(借上車) [宿泊：東横インソウル永登浦、フェアフィールド・バイ・マリオット・ソウル]
8/6 (火)	8:23~11:32 12:00~15:00 15:00~16:00 16:00~17:00 17:00~17:30	[移動]永登浦駅→釜山駅(KTX121) [移動]釜山駅→釜山新港(借上車) ※適宜昼食 ■釜山新港視察 場所：釜山新港広報館 [移動]釜山新港→釜山港湾公社本社(借上車) ■釜山港湾公社()部長)との意見交換会 場所：釜山港湾公社 [宿泊：アスティホテル釜山]
8/7 (水)	7:00~ 9:43 10:10~10:53 13:25~14:50	[移動]釜山駅→ソウル駅(KTX) [移動]ソウル駅→仁川空港(空港鉄道) [移動]仁川空港→米子空港(RS745)

活 動 報 告 (県外・国外)

議員名：鳥羽喜一

活 動 事 項	隠岐視察
活 動 年 月 日	8 月 19 日
場 所	隠岐
活動の相手方	海士町複業組合、隠岐島前高校魅力化プロジェクト
活 動 の 目 的	海士町複業組合視察 隠岐島前高校視察
活 動 の 内 容	今回の視察は、人口減少・若者の都市部流出という課題に直面しながらも、地域の持続可能性を追求し、地域内での人材循環・教育・雇用創出の新たなモデルを築いている離島地域の取り組みを学ぶことを目的としました。 海士町複業協同組合においては、複数の仕事を組み合わせる「複業型雇用」を通じて、地域内で多様な働き方を実現し、若者や移住者が定着できる仕組みを視察。 隠岐島前高校では、「魅力化プロジェクト」により全国から生徒を集め、地域と連携した教育を行う学校の取り組みを確認しました。
活動の結果等	■ 海士町複業協同組合について 視察では、組合員が漁業、観光、福祉、教育支援、農業など、複数の職を兼ねながら地域内で仕事を「回し合う」仕組みを直接見聞きました。 一人の働き手が季節や時間に応じて異なる業務に関わることで、地域全体の雇用を柔軟に確保し、また外部からの移住者にも働く場を提供しています。 特に印象的だったのは、単なる雇用創出にとどまらず、地域の課題解決に人を巻き込みながら、新しい仕事を創り出している点です。行政だけでは難しい分野でも、地域組織が民間的な柔軟さを持って対応していることに大きな可能性を感じました。 ▶ 視察結果として： このような仕組みは、県内の中山間地域や離島部においても、地域資源の活用×多様な働き方を組み合わせるモデルとして参考にすべきであり、行政による支援制度や人材マッチングの仕組みとの連携が課題です。 ■ 隠岐島前高校について 同校では「高校魅力化プロジェクト」を通じ、全国から入学する生徒を受け入れ、地域の課題と向き合う探究学習やプロジェクト型授業

	に取り組んでいました。 地域住民や外部人材（コーディネーター）が教育に関与することで、学校が「地域の未来を担う拠点」となっている様子を確認しました。 特に、生徒たちが「この町で学び、この町で生きること」に誇りを持ち、地域に対する当事者意識を高めている姿は、教育が地域を変える原動力であることを強く実感させられました。 ▶ 視察結果として： 県内の高校でも「地域とつながる教育」や「多様な外部人材との連携」は今後ますます必要であり、高校の魅力化＝地域の魅力化という視点を教育政策に取り入れる必要があると考えます。
関連領収書番号	19

活 動 報 告 (県外・国外)

議員名：鳥羽喜一

活 動 事 項	大阪・関西万博に向けた鳥取県大阪本部との意見交換
活 動 年 月 日	12 月 27 日
場 所	鳥取県関西本部
活動の相手方	担当課
活 動 の 目 的	2025 年に開催される大阪・関西万博に向け、鳥取県の参画状況、特に出展内容やプロモーション戦略について把握し、今後の県政や議会提言に活かすことを目的に、鳥取県大阪本部を訪問し意見交換を実施した。
活 動 の 内 容	鳥取県大阪本部の担当者より、現時点での県の万博参画に関する取り組みについて、以下のような説明を受けた： ・鳥取県は「大阪・関西万博 地方自治体パビリオン」への出展を正式に決定済みであり、 現在は展示テーマやデザインの検討、出展事業者の選定に入っている段階。 鳥取県の強みである「自然資源」「食」「文化・まんが王国」「持続可能な暮らし」などを活かした発信が計画されている。 ・大阪本部は、出展準備にあたって万博協会との連絡調整を担うとともに、関西圏の経済団体や他県事務所との連携、広報戦略の支援を行っている。 ・出展に合わせて、鳥取県単独のプロモーションイベントや観光誘客キャンペーン、企業マッチング等の関連施策も準備中である。 特に、万博期間中の現地サテライトイベント、関西圏での県産品PR、教育機関との連携なども検討されている。 ・万博終了後のレガシーとして、人的ネットワークの構築、ブランド力の向上、販路拡大の成果をいかに県内へ還元していくかが課題との認識も共有された。

活動の結果等	鳥取県が大阪・関西万博において正式にパビリオン出展することは、全国的な発信機会として非常に意義深いものである。特に「まんが王国」「自然・食の魅力」「脱炭素・循環型社会」など、鳥取独自の強みを全面に打ち出す絶好の場であると感じた。 今回の意見交換を通じて、現場レベルでの具体的な準備状況や課題を把握することができた。議会としては、今後の出展内容の精査や、県内関係団体・企業への周知・巻き込み、万博後の経済波及効果の最大化に向けた施策の後押しが求められる。 また、他県との連携や広域的な観光誘客の視点も重要であり、大阪本部との連携を深めながら、鳥取県全体としての効果的な発信を今後も後押ししていきたい。
関連領収書番号	39

活 動 報 告 (県外・国外)

議員名： 鳥羽喜一

活 動 事 項	国東市（大分県）における地方自治体の資金管理運用の取組に関する視察
活 動 年 月 日	2月13日
場 所	国東市
活動の相手方	担当課
活 動 の 目 的	2月定例会において、本県の資金管理のあり方について知事へ質問を予定していることから、先進自治体の取組を学ぶ目的で、大分県国東市を訪問した。 近年のインフレ環境下において、地方自治体が保有する資金を効率的に管理・運用することは、地方自治法にも明記されている行政の責務の一つであり、納税者の視点からもその重要性が増している。本視察では、国東市が実践している資金運用の具体的な手法や考え方、運用に際してのリスク管理体制等について情報収集を行った。
活 動 の 内 容	国東市では、以下のような特徴ある資金管理が実施されている： ・専門人材の採用：金融機関出身者など、資金運用に関する知識・経験を有する人材を財政課に登用し、実務にあたっている。 ・資金の一部を短期運用へ：歳計現金や基金などの余裕資金を、単に銀行口座に預けるのではなく、短期地方債（政府短期証券等）への投資により、リスクを最小限に抑えながらも一定の利回りを確保している。 ・リスク管理体制：議会への報告や内部ルールを明確化し、元本保証型の商品に限定するなど、安全性を最優先に配慮。 ・その他の工夫：銀行との交渉においても、市の資金運用方針を明示することで、より有利な金利交渉や、地域経済への好循環につながる提案を受けやすくなっている。
活動の結果等	本県においては、基金や歳計現金を合わせて約 1,000 億円もの資金が、ほとんど金利ゼロの状態金融機関に預けられており、インフレ環境下では実質的な目減りが発生している状況である。単に「安全第一」の姿勢を守るだけではなく、「効率的に管理する」視点も必要であると再認識した。 国東市の取組は、「リスクを取る」のではなく、「最小限のリスクで最大限の効果を生む」という観点で設計されており、財政運営の新たな視点として非常に参考になった。 今回の学びを踏まえ、今後の議会では県の資金管理の現状と将来的な改善の可能性について、インフレ下における税金の実質的な保全の観点から議論を深め、知事への政策提言に活かしていきたい。
関連領収書番号	42

活 動 報 告 (県外・国外)

議員名： 鳥羽喜一

活 動 事 項	宮崎県スポーツランド推進課への視察（合宿・キャンプ誘致施策について）
活 動 年 月 日	2月12日
場 所	宮崎県庁 スポーツランド推進課
活動の相手方	担当課
活 動 の 目 的	本県におけるスポーツ合宿・キャンプ誘致のあり方を検討するにあたり、全国的に合宿誘致の成功事例として知られる宮崎県の先進的な取組について学び、今後の県政および地域振興施策に活かすことを目的として視察を実施した。 特に、関金地区にオープンした「星取テラス」など、倉吉市内における新たなスポーツ交流拠点の整備を踏まえ、実効的な誘致戦略のヒントを得ることを意図したものである。
活 動 の 内 容	宮崎県スポーツランド推進課（鬼塚主事）から、県が長年にわたり取り組んできた合宿・キャンプ誘致の戦略について、以下のような説明を受けた： ・読売ジャイアンツ、ソフトバンクホークス、鹿島アントラーズ、ラグビー日本代表などを含む多くのトップチームを誘致。 ・年間経済波及効果は約100億円、メディアを通じたPR効果は約60億円と推計。 ・今後の国スポに向け、166億円の屋内プール、154億円の陸上競技場の整備が進行中。 ・県職員による人的対応に加え、スポーツコミッションや観光部局との連携によるワンストップ体制を整備。 ・開催地自治体や地域住民と連携した歓迎体制を整えることで、受け入れの質を高めている。
活動の結果等	宮崎県の合宿・キャンプ誘致は、「投資を通じた交流人口の拡大」と「メディア活用による地域ブランディング」を高度に両立しており、極めて示唆に富むものであった。 特に、施設整備に対する積極投資は、本県の慎重なスタンスとは対照的であり、今後の方針を検討する上で貴重な視点となった。 倉吉市の関金地区に整備された星取テラスを活用した合宿誘致の推進においても、地域をあげた受け入れ体制やPR戦略の強化など、今回の視察で得られた知見を生かしていきたい。
関連領収書番号	42

活 動 報 告 (県外・国外)

議員名：鳥羽喜一

活 動 事 項	オーストリア・フィンランド視察
活 動 年 月 日	3月30日-4月5日
場 所	<フィンランド> LUKE (天然資源センター) TAPIO (森林管理コンサルタント) 在フィンランド日本国大使館 Metsäteollisuus (フィンランド林業協会) <オーストリア> 在オーストリア日本国大使館 Mayr-Melnhof Forsttechnik GmbH (林業会社) Forstliche Ausbildungsstätte Pichl (ピヒル森林研修所)
活動の相手方	LUKE BIOSYS ジャパンエコシステム代表 氏ほか TAPIO カスタムサービスディレクター 氏 ほか 在フィンランド日本国大使館 特命全権大使 岡田隆氏 ほか CEO 氏 ほか 在オーストリア日本国大使館 特命全権大使 岩間公典 MM FORSTTECHNIK GmbH コンサルタント 氏 氏
活 動 の 目 的	本視察は、森林資源の持続的な活用と林業振興に関する先進的な取り組みを行っているフィンランドおよびオーストリアの関係機関を訪問し、林業の高度化、ICT活用、若者の参入促進、森林教育、人材育成、カーボンニュートラルへの対応などの知見を収集することを目的とした。また、各国の森林行政と地域との連携、研究機関・教育機関・コンサルタント会社との役割分担と協力関係の実態を把握し、今後の日本、特に中山間地域の林業施策の参考とすることを意図した。
活 動 の 内 容	LUKE (天然資源センター) 訪問 フィンランドにおける森林・農業・水産の統合研究機関であり、森林の成長予測、炭素吸収量の可視化、リモートセンシング活用などの最先端技術の説明を受けた。 森林データを政策に反映させる仕組みや、森林所有者支援に関する取り組みを視察。 TAPIO (森林管理コンサルタント) との意見交換 私有林の施業支援や長期的経営計画立案に特化したサービスの事例を紹介いただいた。 森林所有者へのデジタルサービス提供 (MyForest 等) と人材育成の

	手法を学んだ。 フィンランド林業協会・在フィンランド日本国大使館 フィンランドの林業政策と教育、民間と行政の連携に関して説明を受けた。 森林教育の義務化、地域での森林体験活動など、社会全体で森林を守る意識醸成の取り組みを確認。 ピヒル森林研修所（オーストリア）視察 林業教育施設としての研修制度、伐採・搬出技術の現地実習、シミュレーターによる訓練などの実態を確認。 若者の林業への関心喚起と就業促進の仕組みについても聞き取りを実施。 在オーストリア日本国大使館訪問 オーストリアにおける林業政策や、EU のグリーン政策との整合性、森林バイオマスの活用状況等について情報提供を受けた。
活動の結果等	フィンランド・オーストリアともに、科学的データに基づく森林経営と、多様な主体の連携による持続可能な林業振興が進んでおり、特にICTと教育の組み合わせが極めて実効性の高いことを実感した。 LUKE や TAPIO の取り組みは、地域に密着しつつも国家全体の森林戦略と整合性を持つモデルとして、我が国の森林・林業施策においても参考にできる。 ピヒル森林研修所での教育・訓練制度は、若者への林業参入促進という課題を抱える日本にとって、大きな示唆を与えるものであった。 加えて、両国の林業政策には長期的視点と高い公共性が共通しており、単に資源活用ではなく、「森を次世代へつなぐ社会的責任」が政策全体に貫かれていた。 今後、鳥取県においても、科学的根拠に基づいた森林管理の推進、若年層を対象とした森林教育や職業教育の充実、行政・研究機関・民間の連携強化といった点に力を入れるべきとの認識を新たにした。
関連領収書番号	59